

平成16年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	77	学校名	茨城県立牛久高等学校				課程	普通科			学校長名	矢口 孝				
教頭名	大竹 喜士郎							事務(室)長名	瀧原 隆							
教職員数	教諭	37	養護教諭	1	常勤講師	3	非常勤講師	3	実習教諭, 実習講師, 実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	2	計	53
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科	105	139	107	134	107	127			319	400	18				

2 目指す学校像

知育・徳育・体育の全人教育を実施し、地域から信頼され存在感のある学校を目指す。特に地域の進学校として生徒一人ひとりの進路希望の実現を目指し、国際社会に生きる豊かな人間を育成する。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	家庭学習時間1時間未満の生徒が7割であり、学習意欲・学習へのモチベーションがともに弱い。 わからないことを徹底して追求していこうとしている生徒が3割であり、学習への意欲が弱い。 学習とは、覚えることであり、理解することである認識が弱い。	いかに自学自習の習慣を養い、家庭学習時間を増やすか。 どのようにして、わからないことをなくしていく努力とともに、わかる喜びを体験させていくか。
進路指導	大学進学希望者が多いが、安定志向が強く現在の實力以上の大学を目指す意欲に乏しい。 目的意識を明確にする時期が遅くなり受験準備が十分にできない生徒がいる。	いかにして自分の能力を最大限に生かした大学選びをさせるか。 いかにして3年間を見通した進路指導を推進するか。
生徒指導	昨年度の遅刻者の数は僅かながら減少。特別指導も比較的落ち着いているが、服装・容儀などの指導がまだ不十分である。 交通事故が若干多く交通安全教育の必要性を感じている。	高校生として、あるいは人間として、当たり前前の生活習慣や規範意識を身につけさせるための指導をどう推進していくか。
特別活動	ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事等（文化祭等）への参加が十分でない。	特活部による支援の仕方と生徒による自主的な取り組みをいかに推進するか。

4 中期的目標

自主的学習を効果的に行わせ、家庭学習の定着を図る。
進路目標を早期に明確化させるために進路ガイダンスを充実させ、希望する大学への合格率のアップを図る。
基本的な生活習慣や規範意識を身につけさせるとともに心の教育の充実を図る。
ホームルーム活動、生徒会活動、部活動への自発的な取り組みの推進を図る。

5 年次ごとの重点目標

年次	重点目標	具体的目標	達成状況
1年次	家庭学習の定着化	授業の工夫・改善を図る 週末課題の提出や小テストをこまめに実施し、特に英数国の学力向上を図る	
	進路ガイダンスの充実	自主学習に関する教員の面談スキルの向上（研修の実施） 早期に必要な進路情報を与え、進路意識を高めモチベーションを持たせる	
	基本的な生活習慣の確立	進路に関する教員の面談スキルの向上（研修の実施） 全教職員による日常的継続的指導、生徒への一声掛けに努める 校則や交通ルールを守り、規律ある生活を送らせる 高校生らしい服装容儀を保つことができるようにする	
	学校行事等への積極的参加	遅刻指導の徹底を図り、昨年度の遅刻数を下回ることを目標とする 文化祭・球技大会等の企画・運営について生徒自ら考え自ら行動できる学校行事を実施する。 文化祭・体育大会等へクラスの全員が団結して臨むようにすることで協働活動による成果を体験させる	
2年次	自主的学習習慣の定着化	わかりやすい授業の工夫・改善 継続的な週末課題・小テストの実施	
	進路目標の明確化	長期休業中の計画的学習の習慣化 必要な情報を効果的に提供し、進路目標を明確化させる 面談を通し、目標明確化ができるためのアドバイスをする	
	規範意識の向上	日常守るべきことをさらに認識させ守らせる LHRを充実させ集団生活を通し他への思いやりの心を育てる	
	学校行事等へ自発的に取り組む	自主的に生徒会主催の行事の企画・運営ができるようにリーダーシップを育てる	
3年次	効果的な自主学習習慣の定着化	さらなる授業の工夫・改善 3年間というスパンを考えて継続的・効果的な小テスト・課題の提供	
	希望進路の実現	希望進路実現のための環境を整える 面談を通し、進路実現のためのアドバイスをする	
	心の教育の充実	規範意識をゆるぎないものにする 集団生活を通し、さらに他への思いやりの心を育てる	
	生徒による学校行事の運営	リーダーを中心に生徒会主催の行事の企画・運営を任せ、成就感を持たせる	